

あおぞら

No.97

2011年4月1日発行
JA高知厚生連

●発行/高知県厚生農業協同組合連合会 ●編集/企画管理課 〒783-8509 高知県南国市明見字中野526-1
TEL 088-863-2181 (代表) FAX 088-863-2186 ホームページ <http://www.kouseiren.ja-kochi.or.jp>

JA高知病院
JA高知健診センター
介護老人保健施設JAいなほ



新院長ご挨拶

健診センター情報

肝疾患と飲酒について

新任医師のご紹介

このたびの東北地方太平洋沖地震により 被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

現在、JAグループは総力を挙げて、被災地に向けた物的・人的支援及び募金活動を行っており、全国の厚生連も一致団結し、医師、看護師等のスタッフを現地に派遣し、救護支援に力を尽くしております。

本県におきましても、JAグループ高知として危機管理対策本部を設置し、被災地支援、行政等が行う活動への協力に取り組んでおります。

JA高知病院は、災害支援病院としての責務を果たすべく被災された方々の受入支援を行うとともに、現地への医師派遣についても検討を行っております。

また、あらゆる事態を想定し、今後に向けた万全な体制づくりに取り組んでいるところであります。そのような中、被災地の復興を願い、1階受付窓口に義援金箱も設置いたしました。つきましては、一人でも多くの皆さまの善意のご協力をお願い申し上げます。

今後も被災地の要請等もふまえ継続して支援を行うとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

高知県厚生農業協同組合連合会
会長 佐竹 広茂



「節分会」を開催しました

2月3日、老健施設JAいなほで、ご利用者の皆様の無病息災を願って「節分会」を開催しました。

職員2人が鬼となり、利用者の方々には新聞紙を丸めた「豆」を持っていただき、鬼が逃げ惑う中、「鬼は外〜」「福は内〜」の掛け声と共に豆をぶつけ、厄祓を行いました。中には、何とかして鬼に豆をぶつけてやろうと、必死で鬼を追いかけ回す方もいて、会場

は爆笑の渦に包まれました。最後は、皆さんの迫力に鬼も恐れをなして逃げていきました。

利用者の方からは、「本当に楽しかった。気分がすっきりした」「こんなに笑ったのは久しぶりや」「また来年もやってね」と大変好評でした。



▲豆をぶつけられて鬼も大慌て

看護師復職支援研修のご案内

現場を離れている看護師のみなさん、もう一度働いてみませんか？



JA高知病院では、子育てなどで、医療現場を離れてしまい、現場復帰に不安な方に対して現在の看護技術や医療情勢を知っていただく、看護師復職支援研修を実施しています。ぜひお気軽にお問い合わせください。

- 対象
・看護経験が少ないため不安な方
・お産・子育てで離職されていた方
・病院の経験の少ない方

- 内容
1日から2日程度で実施します。内容は個人に合わせてご相談に応じます。お気軽に看護師対策室までお問い合わせ下さい。
※復職支援職場体験はJA高知病院への就職等を条件とするものではありません。

- 費用 無料
- 昼食 各自でお取りいただきます。

ご持参もしくは当院のレストラン、売店をご利用下さい。

- 持参していただくもの
・看護師免許(写)当日確認のみ。提出不要
・白衣(お手元に無い場合は当院で準備いたします)
・上履き(ナースシューズやスニーカーなど各自でご準備下さい)
・筆記用具

- お申し込み・お問い合わせ
お電話もしくは当院ホームページのお申し込みフォームにて、お申し込み・お問い合わせください。

TEL: 088-863-2181 (代)

ホームページ:
<http://www.kouseiren.ja-kochi.or.jp/hospital/>
JA高知病院看護師対策室 担当: 吉本

平成23年4月より
JA高知病院の病院長に
就任いたしました曾根三郎です。



JA高知病院 院長
曾根 三郎

JA高知病院は開設以来80年の長い歴史を持ち、昭和初期の厳しい不況の中、社会的保障制度もなく、貧苦にあえぐ農村を救済するための自衛手段として農民の手により1931年（昭和6年）に香長病院が野田村（現在南国市）に開設されました。その後、昭和46年に「高知県農協総合病院」と名称変更して211床の総合病院へと拡充し、2002年（平成14年）には南国市明見字中野（現在地）へ移転新築し、「JA高知病院」と名称を改め、高知県東部における重要な地域医療の拠点として重要な役割を担っております。また、高齢化社会の到来を受け、JA高知厚生連は居宅介護支援事業所「JAみのり」を併設した介護老人保健施設「JAいなほ」をJA高知病院に近接して開設し、連携した取り組みを行っております。

JA高知病院の理念は、
医療の安全を保証し、質を高め、
心のこもったサービスを
提供することです。

基本方針として

- 1 私たちは、心の通う診察を行ない、最先端の医療技術を用い、より早くよりの確に診断します。
- 2 私たちは、生命の尊厳を自覚し絶えず自己研鑽に努め、一人ひとりに適した治療を行ないます。
- 3 私たちは、患者さまの生き方を尊重し、その方らしい自立を支援します。
- 4 私たちは、安全で安らぎのある療養環境を整え、苦痛を和らげ、回復を助けます。

これからもJA高知病院開設時の趣旨と理念を忘れず、基本方針を大切に本来の役割と責務を果たしていく所存です。

近年、医療政策の恩恵が都会を中心に一極集中化し、地域医療の崩壊がもたらされています。世界的に自慢できる国民皆保険制度にもかかわらず、医療過疎が日本のあらゆる所で発生しております。高知県も医療過疎化の影響を受けて、医師の地域偏在や不足が常態化し、地域の求めに対応できる医

療の提供が公平に行われない現状にあります。国民はだれもが、「元気に長生きしたい」との願いを持っており、病気がかかったり、症状が出たりすると元気に出来ないのでは？と不安が強く出てきます。特に、3人に1人ががんで亡くなる現在の現状において、がんの早期発見と共にがん治療への取り組みは大きな国民的関心事となっており、そのよ

うな不安や心配を取り除くのが私たちの使命です。

JA高知病院は、これからも医療のさらなる向上を目指して高度医療を担う高知大学医学部附属病院、高知医療センターなどの連携を大切に、また地域の第一線

とも医療従事者の責務であり、JA高知病院は暖かい人間的な触れ合いの中で最先端の医療を駆使し、がんやリウマチ性疾患を含めた難治性疾患に対しても病院スタッフ一丸となって正面から取り組んでおります。

JA高知病院は、これからも医療のさらなる向上を目指して高度医療を担う高知大学医学部附属病院、高知医療センターなどの連携を大切に、また地域の第一線

どの病診連携を深め、組合員をはじめ、地域の方々の健康増進への支援や良質の医療を患者の皆さんへ提供していく所存です。そのためにも、職員全員の知と技を結集させて、地域の方々や患者の皆さまに安心、安全を届けることのできる病院づくりに努めてまいりますので、皆さまからのご意見やご提案を今後ともよろしくお願いたします。

略歴

- 昭和48年3月 徳島大学医学部医学科卒業
- 53年9月 米国国立癌研究所フレデリック癌研究センター留学
- 56年1月 徳島大学医学部附属病院助手（第3内科学）
- 59年1月 米国テキサス大学MDアンダーソン病院癌研究所留学
- 61年2月 徳島大学医学部附属病院講師（第3内科学）
- 平成6年12月 徳島大学医学部教授（第3内科学）
- 11年4月 徳島大学医学部附属病院治験管理センター長
- 14年4月 徳島大学保健管理センター所長
- 14年11月 徳島大学医学部長（4年間）
- 16年4月 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部長（4年間）
- 23年4月 徳島大学名誉教授、客員教授
JA高知病院 病院長

賞

- 昭和62年 日本癌学会奨励賞
- 平成20年 第44回徳島新聞賞（科学部門）

学会会長

- 2001年 第10回日本がん転移学会会長
- 2002年 第15回日本臨床腫瘍研究会（現日本臨床腫瘍学会）会長
- 2003年 平成15年度 日本内科学会生涯教育講演会日セッション会長
- 2006年 第11回国際がん転移学会（MRS）会長、第15回日本がん転移学会会長
- 2008年 第48回日本呼吸器学会会長
- 2009年 第13回日本がん分子標的治療学会会長

社会活動

- ・厚生労働科学研究費補助金（厚生科学特別研究事業）「医師主導の治験の実施の在り方に関する研究」班協力研究員（平成14年）
- ・財団法人 徳島県総合健康センター 理事（平成15-18年）
- ・国立大学医学部長会議研究倫理委員会委員長（平成15年-18年）
- ・文部科学省事業「臨床研究の倫理と利益相反に関する検討班」班長（平成16-18年）
- ・日本医師会「会員の倫理・資質向上委員会」委員（平成18年10月-20年3月）
- ・日本がん臨床試験推進機構理事（平成15年-現在）
- ・日本学術会議連携会員（平成18年-現在）
- ・NPO法人徳島医学研究・教育支援機構理事長（平成16年9月-現在）
- ・徳島大学医学部医師会理事（平成20年-平成23年）
- ・徳島県医師会代議員（平成22年3月-23年）
- ・徳島県医学・感染症専門委員（平成21年9月-平成23年3月）
- ・日本医学会利益相反委員会委員長（平成22年-現在）

酒類消費量が全国第2位 肝疾患有所見率と高い相関

1998年から10年間に死亡した高知県民のうち、40〜50歳代男性の死亡率が全国平均を1割以上も上回っていることが、高知県のまとめでわかりました。死因疾患として、心疾患、脳血管疾患、肝疾患が多く見られます。

当健診センターでの人間ドック受診者について、検査結果をしてみると、男性では、肥満、中性脂肪、肝機能検査（脂肪肝含む）における有所見率が全国平均（日本病院会調査）を上回っていました（図1）。その要因として、高血圧疾患（全国15位）、肥満率の高さ（全国10位）、酒類消費量の多さ（全国第2位・第133回国税庁統計

年報書）などがあります。

今回、本県の酒類消費量の多さに着目し、男性ドック受診者の肝機能検査結果について集計したところ、40〜50歳代の働き盛りで肝機能有所見者の割合が高いことがわかりました（図2）。また、毎日酒を1合以上飲んでいる方の割合が、肝機能有所見者群では正常者群に比べて約15倍高いことが明らかになりました（図3）。一方、1合未満の割合は肝機能正常者群のほうが多くなっています。年齢別に見ても、40〜50歳代の働き盛りで毎日1合以上飲んでいる割合が高くなっています（図4）。



お酒の飲みすぎは肥満につながりやすく、高血圧症、脂質異常症、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の発症にも大きくかかわっていることが知られており、JA高知健診センターでは、「飲酒はその人にあった適量を、また人間ドックなどで全身状態を定期的にチェックし、自己管理する」ことを推奨しています。

以上の調査結果は、飲酒と肝疾患

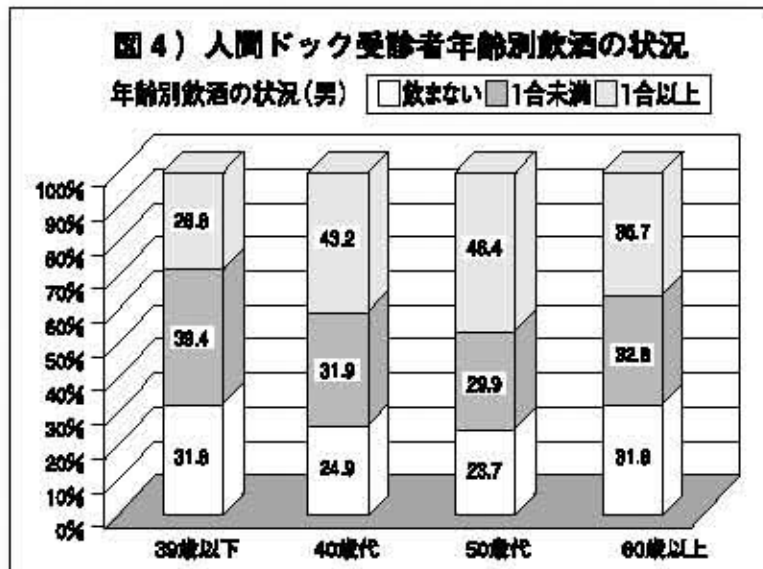
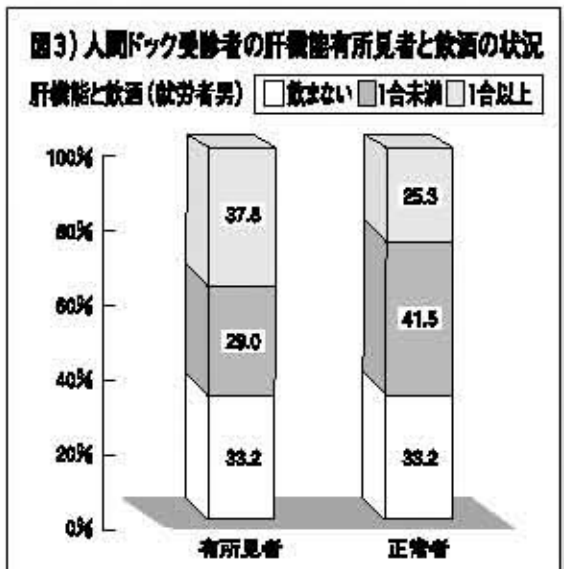
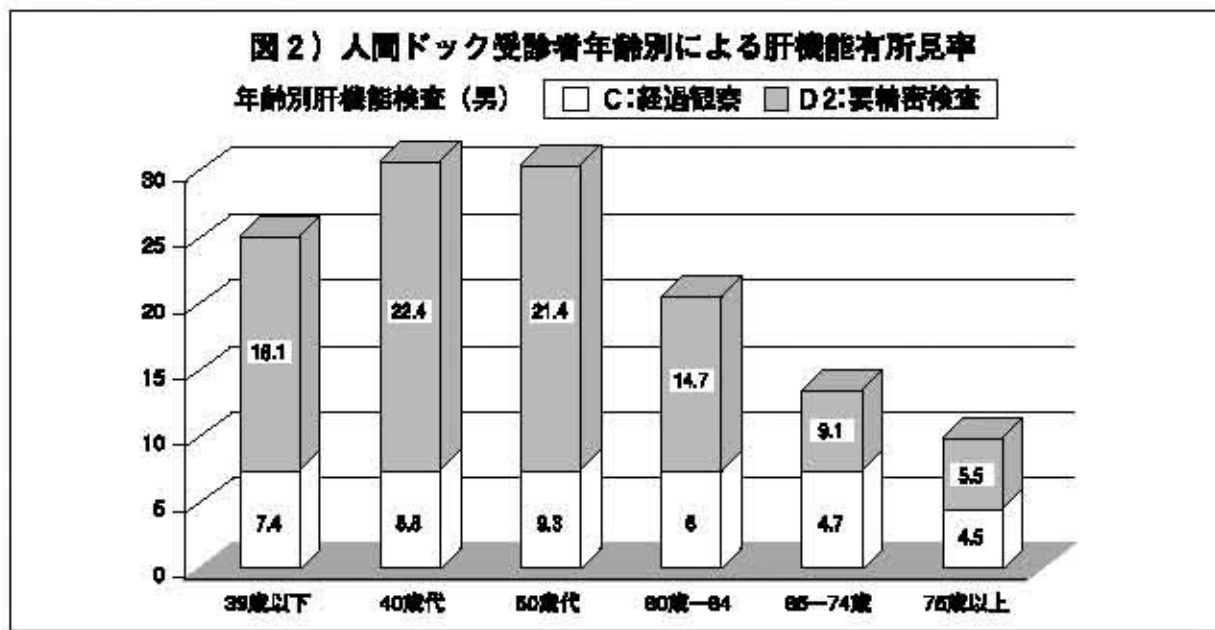
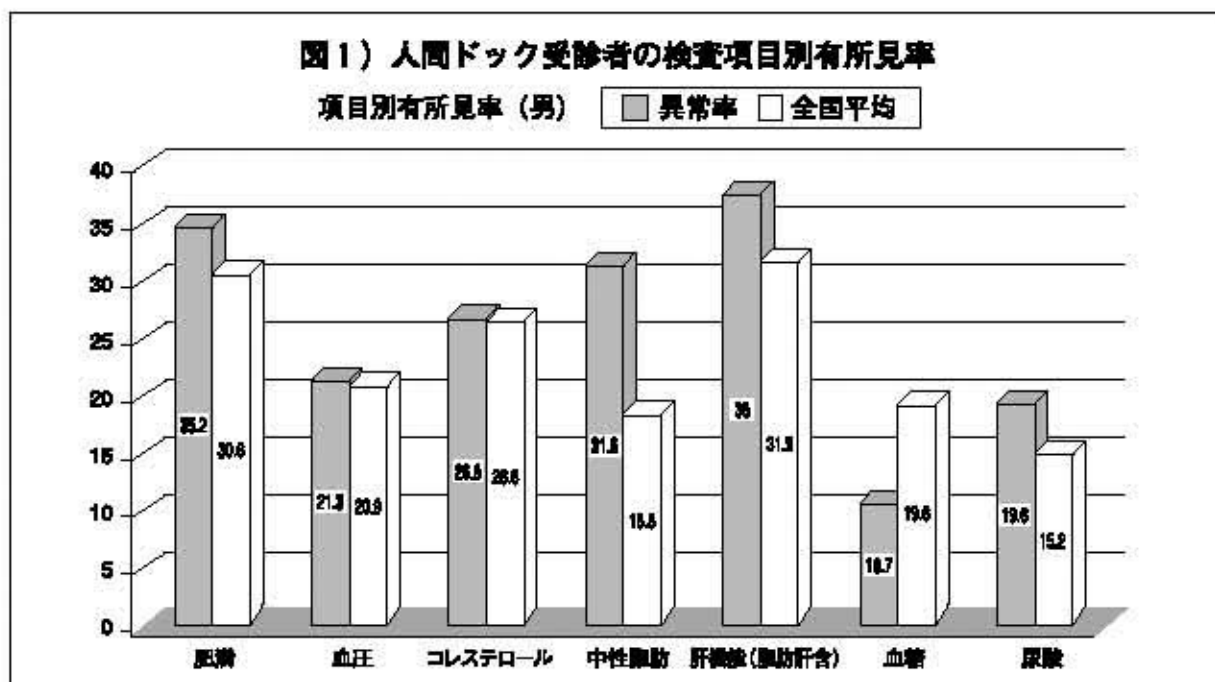
患者が深く関係することを改めて示したものであり、40〜50歳代の働き盛りで毎日1合以上飲んでいる方は、ぜひとも人間ドックなど健診で定期的にチェックを受け、肝疾患をはじめ生活習慣病の予防や治療に役立てていただきたいと思います。

ご不明の点やご質問がありましたら、お気軽にご相談ください。

健診センターからのお知らせ

JA高知健診センターの人間ドックでは、生活習慣病を中心に予防と早期発見・早期治療に役立つ検査を詳しく実施しておりますが、新たにオプション検査として、心臓の「元気度」を測定するBNP検査と腫瘍マーカー検査（CEA、CA19-9、AFP）を行うことになりました。詳しくは、当センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先 JA高知健診センター
TEL: 088-863-8510 (直通)



※「健診のなぜなぜ」「糖尿病教室のご紹介」はお休みします。

新任医師のご紹介



多田 浩也 ただひろや
診療科 一般内科

平成2年 徳島大学医学部卒業
資格 日本内科学会認定内科医
日本呼吸器学会認定専門医
がん治療認定医
気管支鏡専門医
日本医師会認定産業医
ICD
医学博士

4月より内科で勤務させていただくことになりました。今までの経験を生かして病院職員の皆さんと一緒に地域医療、がん診療を通して患者の皆様に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



平成18年 高知大学医学部卒業

4月より内科医として勤務させていただいております。少しでも地域の皆様のお役に立てるよう日々、診療にあたりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

吉嶋 輝美 よしじまてるみ
診療科 一般内科

医療・健康の知識をもっと身近に

JA高知病院公開医療講座開催

2月18日、土佐町中央基幹集落センターにおきまして、JA高知病院公開医療講座を開催いたしました。

JA高知病院では、医療や健康に関する知識をより深めていただくために、医師・保健師等のスタッフが県内各地に出向き、講演をさせていただいております。今回は、「もっと知りたい心臓病の予防と治療（動脈硬化からあなたを守るために）」と題し、循環器科 生藤博行診療部長が講師を務めました。会場には、地域の高齢者の方を中心に大勢の方が会場を訪れ、講演を熱心に聞き入っていました。講座終了後も、多くの方が講師の周りに集まり、生活習慣病などに関する質問を行う光景が見られました。



▲質問に答える生藤診療部長

が会場を訪れ、講演を熱心に聞き入っていました。講座終了後も、多くの方が講師の周りに集まり、生活習慣病などに関する質問を行う光景が見られました。

BLS研修を開催しました

1月26日、2月10日の2日間に亘り、医療安全管理委員会主催によるコメディカルスタッフ（医師・看護師以外の医療従事者）を対象としたBLS研修が行われました。

BLSとは、Basic Life Support（一次救命処置）の略で、特殊な器具や医薬品を用いずに、救急車や医師が来るまでに行う心肺蘇生法を指し、正しい知識と適切な処置の仕方さえ知っていれば、誰でも行うことができます。

具体的には、窒息した人の窒息の解除、倒れた人の安全の確保、119番通報、気道の確保、心臓マッサージ、AED（自動体外式除細動器 心臓に電気ショックを与え、心臓の働きを元に戻す）の使用等を行います。

今回は、専門の研修を受講した看護師が講師となり、BLSの基礎知識ややり方について説明を行い、それらを踏まえ参加者にお手本を見せました。そのお手本をもとに、参加者が実践していきましたが、心臓マッサージで胸骨を押そうとしても、うまくいかず「もっとテンポよく」と指導受ける場面も見られました。しかし、次第に参加者もコツをつかみ、最後にはスムーズに対応できるまでになりました。



▲心臓マッサージを行う参加者

平成22年度

JA高知病院研修セミナーを開催

2月9日、当院コミュニティホールにおいて、地域の先生方との相互学習を通じて、連携を深め、協力体制を整えることを目的としたJA高知病院研修セミナーを開催しました。

当院医師の発表の後、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 循環器内科学 教授 佐田 政隆 先生に特別講師としてご講演いただきました。



▲特別講師 佐田政隆先生

地域の先生方から活発なご意見、ご質問等をいただき非常に有意義な会となりました。

一般演題

- 「血栓の関与が少なくほとんど慢性完全閉塞であった急性下壁心筋梗塞の一例」 循環器科 轟 貴史
- 「カテーテルアブレーションにて根治し得た心不全合併右室流出路起源特発性心室頻拍の一例」 循環器科 診療部長 生藤 博行

特別講演

「心臓病による死亡率低下に向けて私たちのできること—救命の連鎖と生活習慣病対策—」
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 循環器内科学 教授 佐田 政隆 先生

東北地方太平洋沖地震 支援義援金の受付について

東北地方太平洋沖地震で被災された方々、ご家族の皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。

さて、JA高知厚生連では、被災者の皆様に少しでもお役に立つよう義援金の受付を開始いたしました。JA高知病院1階受付窓口にて義援金箱を設置いたしましたので、ご協力をお願い申し上げます。

皆さまからお預かりした義援金は、JAグループ高知危機管理対策本部を通じて、被災県災害対策本部に寄付させていただきます。



●平成23年1月～2月の診療実績

	1月	2月
外来延患者数(人)	9,677	9,325
新外来患者数(人)	1,530	1,381
入院延患者数(人)	3,944	3,891
新入院患者数(人)	241	208
退院患者数(人)	194	213
平均在院日数(日)	18.1	18.5
手術件数(件)	79	83
救急搬送件数(件)	49	50